

# バラ新品種「ロゼヴィアン」の育成

加藤克彦・宇次原清尚・丸山靖志

## Breeding of New Rose Variety "Rose Bien"

Katsuhiko KATO, Kiyohisa UJIHARA, Yasushi MARUYAMA

**要約**：切花用バラの主力品種である「ローテローゼ」に匹敵する品種を育成するため、1994年に40品種を用い、92組合せの交配を行った。1995年に「スターダム」と「ローテローゼ」の交配から得られた個体に系統番号「95-39」を与え、特性調査、特性検定（形質の安定性、生産能力等）を実施した。1998年には「ロゼヴィアン」と命名し、種苗登録申請を行った。

「ロゼヴィアン」は、花色が鮮赤（JHSカラーチャート0407）色、花形は半剣弁高芯咲きで、「ローテローゼ」によく似ている。花卉数は25枚程度であるが、日持ち性は「ローテローゼ」と同等かやや優れる。良品収量もほぼ同等となる。花首長、葉長、葉幅が小さくなることから、締まった理想的な草姿になる。

**キーワード**：バラ、新品種、鮮赤色、ローテローゼ型花形、理想的草姿

### 緒言

岐阜県の切りバラ生産は、西濃地区の平坦地を中心に行われてきたが、近年飛騨地域等の山間地においても栽培が普及し、現在では県下全域で栽培が行われている。1997年には栽培面積12.4ha、生産額9億で本県の切花品目のトップとなっているとともに、全国においても生産額で第12位に位置する有数の産地である。

しかし、産地間競争の国際化を迎え、国内のみならずインド、韓国、オランダ等の海外産地との競争が激しさを増している。このような厳しい状況下で、産地としてさらなる発展を図るには、独自ブランドの確立が重要な戦略となる。このため、産地ではブランド化に向けた新品種の育成に大きな期待をよせている。また、わが国においても毎年多数の新品種が発表されているが、その大部分は欧米で育成されたものであり、本県での適性等不明な点が多く、生産者は導入にあたって大きなリスクを負うことになる。さらに、主力品種である「ローテローゼ」は発表後10年以上を経過し、新しい品種に対する要望が強くなっている。

そこで、バラ苗生産日本一を誇る本県の育種素材が豊富に利用できる背景を活かし、「ローテローゼ」に匹敵する赤系品種を目的に育種を行った結果、今回優れた形質を持つ「ロゼヴィアン」を育成したので、その特性および育成経過について報告する。

なお、本品種の育成にあたりバラ新品種開発研究会、岐阜バラ会、河本バラ園の皆様にご多大なるご協力を頂いた。ここに記し感謝の意を表する。

### 育成経過

1994年に40の営利品種および独自育成系統を用い92組合せの交配を実施した。1995年に、得られた交配実生を播種し、発芽した個体について1次選抜を行った。

「スターダム」と「ローテローゼ」の交配組合せから得られた個体に「95-39」の系統番号を与え、接ぎ木による増殖を行った。1996年には2次選抜を実施し、切花の形質を中心に調査を行い、新品種候補として選定した。さらに、1997年は「ローテローゼ」を対照品種にして特性検定を行い、形質の安定、生産能力等について検討し、「95-39」を新品種として有望と判断した。また、新品種開発研究会においても有望な新品種であると認められ、育成を完了した。1998年には知事により「ロゼヴィアン」と命名され、種苗法による品種登録出願を行った。

1994年4月	交配	♀「スターダム」×♂「ローテローゼ」
		↓
1995年	1次選抜	花色、花形、花卉数調査
		↓
1996年	2次選抜	接ぎ木適性、栽培特性調査
		↓
1997年	特性調査・特性検定	生産力、形質の安定性検討。対照品種との比較栽培
10月		新品種開発研究会で選定
		↓
1998年		「ロゼヴィアン」種苗登録申請

## 「ロゼヴィアン」の特性

### 1. 生育特性

花形は「ローテローゼ」によく似た半剣弁高芯咲きで、花の大きさは直径12cm程度の大輪となる。

花色は鮮赤色（園芸植物標準色表（JHS）0407）であり、花弁裏が鮮紅色（JHS0107）である。弁裏がやや淡色となることから、「ローテローゼ」に比べて全体的に明るい花色となる。また、花色の移行性については同程度である（表2）。

濃赤系品種によく見られる低温時のブルーイングはほとんどない。また、高温時は花色がやや薄くなることから平坦地の夏切りには向かない。

開花枝の伸長性は中程度で、「ローテローゼ」に比べやや遅いが、シュートの発生は良い。

うどんこ病等の病害虫抵抗性は「ローテローゼ」とほぼ同等かやや優れる。

### 2. 切花品質

切花長は、ロックウールでのアーチング栽培で70cm前後となり、「ローテローゼ」よりやや短くなる（表3）。

花首長は「ローテローゼ」に比べ30%程度短くなる。また、葉の大きさも全葉長、葉幅で30%、小葉長、小葉幅で20%程度小さくなることから、全体にコンパクトな草姿となり、品質的に優れる（表3、図5）。

花弁数は25枚程度であるが、夏期でも花弁数の減少は2～3枚程度と少なく、安定している（表3）。

日持ち性は、温度20℃、湿度80%の条件で、7日程度となり、「ローテローゼ」と同等かやや優れる（図1）。

棘の着生程度は「ローテローゼ」と同等で、切花の扱い易さは変わらない（表1）。

### 3. 収量性

4ヶ月間の総収量は株当たり3.1本で「ローテローゼ」の3.6本よりやや少ないが、上物率が高いことから、良品（60cm以上の切花）の収量はほぼ同じである（図4）。

### 4. 普及性

現在流通している切りバラの色別割合は、赤色が最も多く、30%以上を占めており、次いで桃色の15%の順になり、赤色はバラの中心花色であることがわかる。

この赤系花色の品種について、品種の構成を見ると、「ローテローゼ」が50%以上を占めており、赤系花色の主力品種となっている。「ローテローゼ」は主に花色、花形が高く評価され、現在の地位を得ている（図1）。

この「ローテローゼ」に対し、本品種は花の形質では

ほぼ同等の品質を有するとともに、草姿や日持ち性の点で優れるため、主力品種に次ぐ優良品種として期待できる（表1）。

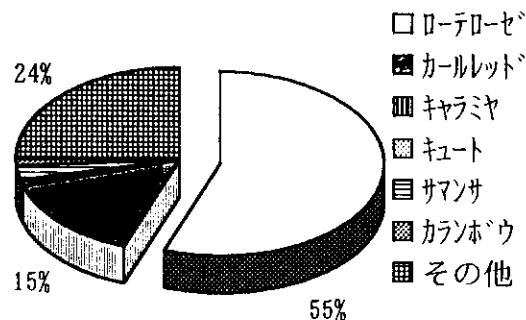


図1 赤系品種の品種別割合

表1 同色系既存品種との比較

品種名	花色 (低温時)	日持ち性	草姿
ローテローゼ	△	○	△
カールレッド	△	◎	○
キャラミヤ	×	○	×
サマンサ	△	◎	×
カラシボウ	×	○	○
ロゼヴィアン	○	○	○

## 引用文献

- 1) 農林水産省花き対策室（1998）：花き生産需給計画、花き情報 No.1 17～19

表2 新育成系統の特性(種苗法に基づく)

品 種 名	花 色		花 形	花 の 大 き さ	葉 色		棘の 程度
	表面	裏側			若 葉	成 熟 葉	
ローテローゼ	0408 濃赤	0407 鮮赤	半剣弁高芯	大	緑褐色	濃緑色	中
スターダム	0408 濃赤	0108 濃紅	半剣弁抱え	大	緑褐色	濃緑色	中
ロゼヴィアン	0407 鮮赤	0107 鮮紅	半剣弁高芯	大	緑褐色	濃緑色	中

表3 新育成系統の切り花形質

品 種 名	切花長	葉 数	花首長	花弁数	茎 径	到花日数
	cm	枚	cm	枚	mm	日
ローテローゼ	80.0	11.1	11.2	29.4	5.8	39.5
ロゼヴィアン	82.1	15.9	7.8	24.3	6.3	45.8

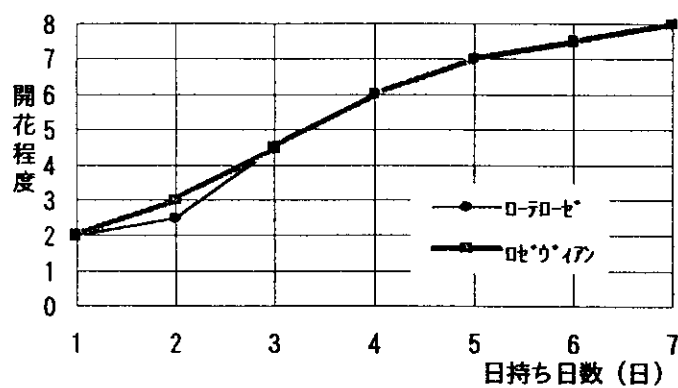


図2 新系統の日持ち性(3月調査)

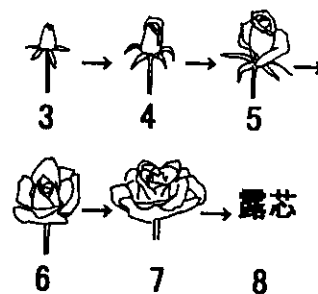


図3 開花程度段階

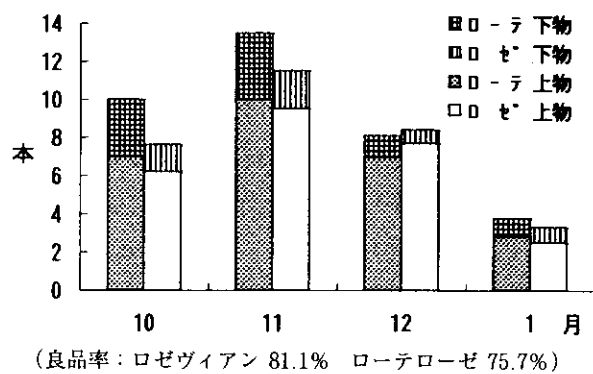


図4 新系統の収量性(10株)

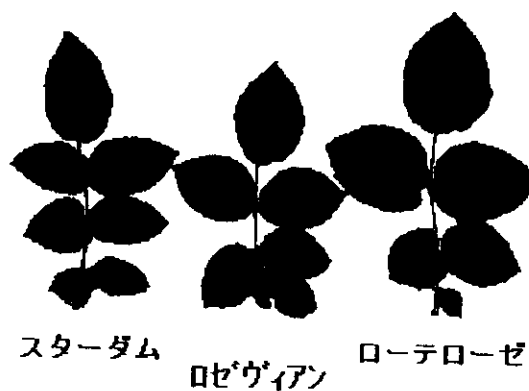


図5 葉の大きさの比較



新品種「ロゼヴィアン」



対照品種との草姿比較